

第6回

福祉用具専門相談員研究大会

介護人材不足を補う福祉用具サービスの役割

～福祉用具の能力を最大限引き出す相談員のスキルアップ～



プログラム集

- ◆ プログラム P 1
- ◆ 特別講演 P 2
- ◆ ランチョンセミナー P 3 ~ 4
- ◆ 発表者一覧 P 5 ~ 7
- ◆ 演題と要旨 P 8 ~ 17

※本プログラムでは、2025年5月9日時点の情報をお知らせしています。
当日のプログラム内容について、一部変更の可能性がございます。

第6回福祉用具専門相談員研究大会プログラム

日 程：2025年(令和7年)6月19日(木)
会 場：浅草橋ヒューリックホール(東京都台東区浅草橋1-22-16)※オンライン併用
大 会 長：小野木 孝二(一般社団法人 日本福祉用具供給協会 理事長)
副大会長：岩元 文雄(一般社団法人 全国福祉用具専門相談員協会 理事長)
大会テーマ：介護人材不足を補う福祉用具サービスの役割
～福祉用具の能力を最大限引き出す相談員のスキルアップ～

※当日のプログラムは一部変更となる可能性があります。予めご了承ください。

2025年 6/19(木)	第一会場：2階 ヒューリックホール	第二会場：3階 Room0(ゼロ)	第三会場：3階 Room4
9:00			
9:30	(受付)		
10:00	10:00～10:30 開会式		
10:30	10:30～11:30 特別講演 手話通訳付き »P2		
11:00			
11:30		(移動)	(移動)
12:00	(休憩)	11:40～12:20 ランチョンセミナー1 »P3	11:40～12:20 ランチョンセミナー2 »P4
12:30		(会場準備)	(会場準備)
13:00	12:50～14:15 口述発表 1 「介護人材不足を補う福祉用具サービス」 (小林 広美座長) »P8-9	12:50～14:15 口述発表 2 「福祉用具利用効果の可視化」 (田中 勇次郎座長) »P10-11	12:50～14:15 口述発表 3 「福祉用具メーカーとの連携・協働」 (小林 大作座長) »P12-13
13:30			
14:00			
14:30	(休憩)	(休憩)	(休憩)
15:00	14:35～16:00 口述発表 4 「地域・多職種連携・利用安全の取組」 (勝田 由美子座長) »P14-15	14:35～16:00 口述発表 5 「経験3年末満相談員の福祉用具導入事例」 (角南 拓磨座長・佐藤 啓太座長) »P16-17	14:35～15:25 老健事業等報告 (移動)
15:30			
16:00	(休憩)	(移動)	
16:30			
17:00	16:20～17:40 シンポジウム 閉会式		
17:30			
18:00	(移動)		
18:30	17:55～19:20 懇親会 (Room1)		
19:00			
19:30			

- ・3会場ともオンラインでの聴講が可能です。
 - ・当時は2階ホワイエにてメーカー様のブース出展を予定しております。
- 【出展企業】(50音順)
- アロン化成株式会社、株式会社イーストアイ、シーホネンス株式会社、株式会社タイカ、株式会社タマツ、
日進医療器株式会社、一般社団法人 日本福祉車輿協会、パナソニックエイジフリー株式会社、株式会社プラツツ、
フランスベッド株式会社

特別講演

時間：10:30～11:30

会場：第一会場（2階ヒューリックホール）

手話通訳付き



[演題]

誰も排除しない「まぜこぜの社会」と福祉用具 ～日々の気づきと支え合いのかたち～

俳優・一般社団法人Get in touch代表

東ちづる 氏

【プロフィール】

俳優・一般社団法人 Get in touch 代表。広島県出身。テレビ、映画、舞台に出演する一方で、ユニバーサル社会の実現を目指す活動を展開している。障害や病、国籍や性のあり方、世代、価値観などの違いを「排除」するのではなく「まぜこぜ」にするという視点から、誰もが安心して暮らせる共生社会の実現を訴えている。

講演骨子

私たちはすでに「共に生きている」——それを可視化し、体験として届けるために、アートや音楽、映像、舞台などのワクワクするエンターテイメントを通じて活動をしています。今回の講演では、30年以上続けている活動を通じて得た気づきや、身近な人との日常において福祉用具の大切さ、さらには、「生きる」とはということについてなど、映像を交えてお話しできればと思っています。

誰も排除しない「まぜこぜの社会」をめざすためには、皆さんと、浅く、広く、ゆるく、つながることです。ぜひこの機会につながってください。

時間：11:40～12:20

会場：第二会場(3階Room0(ゼロ))



[演題]

在宅介護における 姿勢の重要性とその影響について

神戸学院大学
総合リハビリテーション学部 作業療法学科 講師

田代 大祐 氏

【学歴】

- 2010年 国際医療福祉大学 福岡保健医療学部 作業療法学科卒業
- 2016年 国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 保健医療学専攻 修士課程修了
- 2021年 国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 保健医療学専攻 博士課程修了
博士(保健医療学)

【職歴】

- 2010年 一般社団法人 藤元メディカルシステム 藤元総合病院
- 2014年 医療法人社団 高邦会 高木病院
- 2017年 国際医療福祉大学 福岡保健医療学部 作業療法学科 助手
- 2019年 神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 助教
- 2025年 神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 講師

【主な活動】

- 2019年 上肢を支持した排泄肢位が呼吸機能に与える影響、科研費・若手研究
- 2022年 地域在住高齢者における簡易的、定量的横隔膜機能評価スケールの開発、科研費・若手研究
- 2024年 アームレストを活用した食事中の姿勢が呼吸状態に及ぼす影響の解明、シーホネンス株式会社、共同研究
- 2025年 腹部隆起量測定を用いた呼吸サルコペニアのセルフスクリーニングの開発、科研費・基盤(C)代表

セミナー骨子

適切な姿勢保持は食事や呼吸状態の維持において非常に重要である。

ポジショニングツール(笑テーブル)を使用した場合の姿勢の変化や、

姿勢がどのような影響を与えるのかについて、実際の使用動画を交えて解説。

専門的な見地から、在宅介護における姿勢の重要性について述べる。

協賛：シーホネンス株式会社

時間：11:40～12:20

会場：第三会場(3階Room4)



[演題]

介護テクノロジーの動向と 社会福祉法人善光会の取り組み

社会福祉法人善光会 執行役員
株式会社善光総合研究所 代表取締役社長

宮本 隆史 氏

【略歴】

2007年社会福祉法人善光会に入職、現場の介護職やマネジメント業務に従事した後、グループホームや新規特別養護老人ホームの立ち上げを経て、2017年より現職。介護ロボット機器のプラットフォーム「SCOP」や、ケアテックや介護DXに関する正しい知識を身につけ、介護の質と業務の効率化の向上に貢献するため「スマート介護士」事業などを創設。2023年に株式会社善光総合研究所を立ち上げ、現職。業界団体の役員、国・地方自治体の各種委員会の委員を務めるほか、デジタル行政改革会議課題発掘対話などの政府会議や厚労省福祉用具・住宅改修評価検討会委員に有識者としても参画。

セミナー骨子

- ・介護テクノロジーの最新動向
- ・善光会におけるテクノロジー導入・運用事例
- ・テクノロジー導入・活用のポイント

協賛：パラマウントヘルスケア総合研究所

第6回 福祉用具専門相談員研究大会 発表者・演題一覧

口述発表1【介護人材不足を補う福祉用具サービス】

座長：小林 広美 氏（一般社団法人日本介護支援専門員協会 副会長）

No.	発表者	所属	演題（副題）	頁
1	月東 祐哉	株式会社ライフ・テクノサービス	自動ラップ付きポータブルトイレ導入後の介護負担の変化について	8
2	森 祐樹	株式会社トーカイ	車いす利用者のQOLと介護負担の比較検証	8
3	花香 愛 畠谷 泰我	株式会社ヤマシタ	リフト導入による離床回数の変化から考察するノーリフティングケアの重要性について	8
4	神村 淳也	株式会社トーカイ	ALS患者の在宅生活におけるQOL維持のための福祉用具の活用	8
5	今村 慎太郎	フランスベッド株式会社	多職種連携の取り組み (福祉用具専門相談員としての役割、多様化した福祉用具の啓発)	9
6	川崎 めぐみ	国立障害者リハビリテーションセンター研究所	在宅認知症高齢者に対する徘徊対策と見守りのための支援機器の利用実態と選定要件の抽出(アンケート調査)	9
7	松下 祐太	株式会社カクイックスティング	介護現場における会話AIロボットの活用と可能性 (FIMを用いたアンケートとヒアリング調査を通して)	9
8	巖 英二	パラマウントヘルスケア総合研究所	在宅での介護テクノロジー活用による福祉用具専門相談員のモニタリング業務の質向上(福祉用具専門相談員の業務領域の拡大)	9

※当日の発表順は変更となる可能性があります。予めご了承ください。

口述発表2【福祉用具利用効果の可視化】

座長：田中 勇次郎 氏（一般社団法人東京都作業療法士会 会長）

No.	発表者	所属	演題（副題）	頁
1	梶岡 正之	株式会社ヤマシタ	電動車いす導入による、経済的・人的負担軽減と行動範囲拡大の実現	10
2	鎌谷 勝輝	株式会社トーカイ	電動車いすのもたらすADL・QOLへの影響に関する調査	10
3	東海林 明朋	株式会社トーカイ	病名告知が行われていない末期がん利用者に対する福祉用具導入と医療連携について	10
4	前田 壮	株式会社トーカイ	身体状況変化における福祉用具貸与のメリット	10
5	有田 大	ラミコジャパン株式会社	福祉用具利用の適正化と情報共有の容易性についての取組 (計画書及びモニタリング表における利用評価の可視化)	10
6	岩谷 知起	株式会社トーカイ	歩行関連用具の使用による転倒リスクの変化と、福祉用具専門相談員の転倒予防へのアプローチについて	11
7	大田 健介	株式会社カクイックスティング	モニタリングの定量実施によって導き出した歩行器利用効果の可視化(定量分析による取組がもたらすモニタリングでの実用的可能性について)	11
8	沼田 一恵	パラマウントヘルスケア総合研究所	要介護者に対する特殊寝台の福祉用具貸与の有用性の調査研究 (背角度調整による起き上がり動作への影響)	11

※当日の発表順は変更となる可能性があります。予めご了承ください。

第6回 福祉用具専門相談員研究大会 発表者・演題一覧

口述発表3【福祉用具メーカーとの連携・協働】

座長：小林 大作 氏（株式会社アシテック・オコ 代表取締役）

No.	発表者	所属	演題（副題）	頁
1	沼尻 侑也	株式会社ヤマシタ	拡大家族における高機能ポータブルトイの活用	12
2	上田 晃義	株式会社柴橋商会	独居利用者への福祉用具サービス提供 (自由な時間を過ごしたいA氏に、福祉用具の提供を行った)	12
3	喜多 祐介	株式会社ヤマシタ	介護リフトを活用し、退院後夫婦で自立した在宅生活を送る為の取り組み	12
4	和泉 友紀	株式会社ジー・シー・アイ	福祉用具専門相談員の関わりを通した移動用リフト導入効果の検証	12
5	藤本 裕香 廣瀬 健史	株式会社ヤマシタ	「軽量でコンパクトな歩行車がよい」に縛られない あえて「広い支持基底面の歩行器」を提案した事例	13
6	安樂 慶太	フランスベッド株式会社	福祉用具メーカーとの連携による勉強会 (リハビリ職に対する福祉用具の知識の共有)	13
7	中山 雅人	エイジライフ株式会社	緊急時、非常事態時における福祉用具専門相談員の最善を考えた行動	13
8	宮本 康平	株式会社ウィードメディカル	モニタリング時の議事録自動作成アプリ導入における業務改善効果と課題	13

※当日の発表順は変更となる可能性があります。予めご了承ください。

口述発表4【地域・多職種連携・利用安全の取組】

座長：勝田 由美子 氏（一般社団法人ワイルド住環境研究所 代表理事）

No.	発表者	所属	演題（副題）	頁
1	高崎 光	エイジライフ株式会社	地域・多職種連携の中で認知症の方を支える福祉用具専門相談員の役割	14
2	岸本 拓真	株式会社トーカイ	多職種連携による大腿骨骨折患者の在宅復帰への取り組み (福祉用具の在り方)	14
3	磯部 真悟	株式会社トーカイ	退院支援における多職種連携と住環境整備の重要性 (多職種連携で実現した安全で快適な在宅生活のサポート)	14
4	伊丹 貴信	株式会社同仁社	定期モニタリング訪問による福祉用具の選定・提案	14
5	小島 みさお	東京都健康長寿医療センター研究所 ・明星大学	福祉用具貸与・販売選択制導入半年後の実態と課題 (福祉用具専門相談員への調査から)	15
6	浅野 一諒	株式会社同仁社	特殊寝台利用の利用状況把握と再説明の必要性 (モニタリングの重要性)	15
7	菅原 桜	株式会社タマツ	災害時における福祉用具貸与事業者の役割	15
8	水越 良行	株式会社ヤマシタ	親の介護を経験し気づいた、福祉用具サービスの効果と課題	15

※当日の発表順は変更となる可能性があります。予めご了承ください。

第6回 福祉用具専門相談員研究大会 発表者・演題一覧

口述発表5【経験3年未満相談員の福祉用具導入事例（チャレンジ発表）】

座長：角南 拓磨 氏（日本基準寝具株式会社 財務・法務Gr. 課長代理）

佐藤 啓太 氏（フランスベッド株式会社 メディカル事業本部 メディカル営業推進課 課長）

No.	発表者	所属	演題（副題）	頁
1	渡邊 暖希	株式会社ヤマシタ	退院後の家屋環境整備を通して感じたご家庭での人材不足	16
2	堀田 和秀	日本基準寝具株式会社	医療と介護の架け橋となるべき福祉用具専門相談員の在り方 (ギャップを埋める医介連携と制度にとらわれない住環境マネジメントの重要性について)	16
3	上村 航輝	株式会社カクイックスティング	多系統萎縮症の重度利用者への福祉用具導入事例 (床ずれ防止用具、体位変換器クッション導入事例を通して)	16
4	小木 康平	株式会社ヤマシタ	高齢者への福祉用具啓発活動がもたらす意識変容と福祉用具専門相談員が担うべき役割の検討	16
5	菅原 誉生	株式会社かんきょう	福祉用具導入における機能的評価 (Barthel Index、以下BI) と NRS (Numerical Rating Scale) の活用及び導入効果の可視化 (福祉用具導入効果の数値化に向けた取り組みと課題)	17
6	藤原 孝洋	株式会社ヤマシタ	退院後の安全な在宅生活を送るための多職種連携の必要性	17
7	山崎 圭太	株式会社トーカイ	パーキンソン病の進行により転倒を繰り返していた6輪自走車いす利用者に対する福祉用具導入事例	17
8	高橋 大地 徳留 勇治	株式会社カクイックスティング	モニタリングの適切な実施に向けた取り組み (ケアマネジャーへのアンケート調査を通じた現状と課題)	17

※当日の発表順は変更となる可能性があります。予めご了承ください。

口述発表1 【介護人材不足を補う福祉用具サービス】 演題と要旨

氏名(所属)	
ゲットウ エンヤ 月東 祐哉 (株式会社ライフ・テクノサービス)	
演題 (副題)	自動ラップ付きポータブルトイレ導入後の介護負担の変化について
要旨	介護支援の中で負担になっていることの一つとして排泄ケアが挙げられる。 自動ラップ付きポータブルトイレを導入することで利用者様・介護従事者の双方に対してどのような効果をもたらすのかを調査する

氏名(所属)	
モリ エンキ 森 祐樹 (株式会社トーカイ)	
演題 (副題)	車いす利用者の QOL と介護負担の比較検証
要旨	車いすの導入が利用者の自立支援、および介助者の介護負担軽減にどれほど寄与しているかを、自走式車いすおよび介助式車いすの両方で調査し、その差を明らかにする目的で、「改訂版 PGC モラールスケール」と「Zarit 介護負担尺度」の2つの評価指標を用いて調査を実施。導入1か月と導入3か月後の数値を比較したときの結果を報告する。

氏名(所属)	
ハナカ アイ ハタニ タイカ 花香 愛 畑谷 泰我 (株式会社ヤマシタ)	
演題 (副題)	リフト導入による離床回数の変化から考察するノーリフティングケアの重要性について
要旨	ノーリフティングケアの一環としてリフト導入により、本人の生活範囲拡大と介護者の身体的負担軽減に繋がった事例を報告する。

氏名(所属)	
がくじら ジュンヤ 神村 淳也 (株式会社トーカイ)	
演題 (副題)	ALS患者の在宅生活におけるQOL維持のための福祉用具の活用
要旨	ALS(筋萎縮性側索硬化症)の診断が出たタイミングから現在まで、症状の進行に併せて福祉用具を導入。特に多職種連携と福祉用具の活用によりQOLの維持に繋がった事例を報告する。

氏名(所属)	
イマムラ シンタロウ 今村 慎太郎 (フランスベッド株式会社)	
演題 (副題)	多職種連携の取り組み (福祉用具専門相談員としての役割、多様化した福祉用具の啓発)
要旨	世田谷区では地域包括支援センターと地域連携医とが協力して多職種連携の勉強会、交流会が行われている。福祉用具は技術革新により複合的機能を有しているものが毎年のように発売されており医療職は積極的に探さない限り患者の自宅以外に福祉用具を触れる機会が無い。福祉用具の適切な選定、使用方法や最新の製品情報の共有、同業者や関連職種との情報交換を行い連携体制強化のため事例発表と福祉用具の体験会を開催した事例を報告する。

氏名(所属)	
カワサキ メグミ イノウエ タケル 川崎 めぐみ 井上 剛伸 (国立障害者リハビリテーションセンター研究所)	
演題 (副題)	在宅認知症高齢者に対する徘徊対策と見守りのための支援機器の利用実態と選定要件の抽出 (アンケート調査)
要旨	在宅認知症高齢者の支援として、徘徊対策や見守りのための支援機器が有効に活用されるよう、専門職の支援機器提供の実態調査に基づき、導入や選定する上での要件を分析した。その結果、リスク要因を特定し、利用者の認知特性や生活環境を把握した上で、支援機器を選定することが重要であると示された。

氏名(所属)	
マツシタ ユウタ 松下 祐太 (株式会社カクイックスティング)	
演題 (副題)	介護現場における会話AIロボットの活用と可能性 (FIMを用いたアンケートとヒアリング調査を通して)
要旨	介護人材不足が叫ばれる中で介護スタッフが少ないとことにより、一人あたりの仕事量が多くなり忙しさに追われていることから、利用者とのコミュニケーションがしっかりと取れない状況が増えている。また、家族と離れて暮らす入居者様はスタッフ以外の他者と接する機会が少ないとこも相俟って、会話の頻度が少なくなっている。この実情を踏まえ、介護現場における会話AIロボットの導入事例を通じた効果検証の結果と課題について報告する。

氏名(所属)	
イオ エイシ ヌマタ カズエ イタクラ ユウタ ニシムラ ジュンコ 巖 英二 沼田 一恵 板倉 佑太 西村 潤子 (パラマウントヘルスケア総合研究所) フクシマ トモヒコ 福島 伴彦 (株式会社カクイックスティング)	
演題 (副題)	在宅での介護テクノロジー活用による福祉用具専門相談員のモニタリング業務の質向上 (福祉用具専門相談員の業務領域の拡大)
要旨	介護現場の人材確保が課題となる中、介護テクノロジーの活用が注目されている。本研究では、福祉用具専門相談員が取得した在宅要介護者のログデータを分析し、モニタリング業務への寄与を検証した。具体的には、睡眠情報や位置情報などのデータが福祉用具の提案や他職種への情報提供にどのように役立つかを調査した。研究大会では、具体的な事例紹介とデータ取得の課題について発表する。結果として、ケアマネジャーの業務効率化や個別ケアの質向上に寄与する可能性が示されたが、対象者数の少なさや技術導入の課題も明らかになった。

口述発表2【福祉用具利用効果の可視化】 演題と要旨

氏名(所属)	
榎岡 正之 (株式会社ヤマシタ)	
演題 (副題)	
要旨	電動車いす導入による、経済的・人的負担軽減と行動範囲拡大の実現
要旨	電動車いすを利用することで、一人での外出が可能となり、今までよりも行動範囲が広がり、家族への介護負担軽減と経済的な負担も軽減することができた事例を報告する。

氏名(所属)	
鎌谷 勝輝 (株式会社トーカイ)	
演題 (副題)	
要旨	電動車いすのもたらす ADL・QOL への影響に関する調査
要旨	電動車いすを導入することによる身体的、精神的な変化を明らかにすることを目的として、電動車いす導入前後の ADL および QOL を調査した結果を報告する。

氏名(所属)	
東海林 明朋 (株式会社トーカイ)	
演題 (副題)	
要旨	病名告知が行われていない末期がん利用者に対する福祉用具導入と医療連携について
要旨	病名告知が行われていない末期がん利用者のケースにおいて、携わった利用者の事例を元に、実践した医療連携と福祉用具の導入プロセスとその効果について報告する。

氏名(所属)	
前田 壮 (株式会社トーカイ)	
演題 (副題)	
要旨	身体状況変化における福祉用具貸与のメリット
要旨	福祉用具貸与のメリットのひとつは、身体状況の変化に応じた返却、変更ができることがある。返却、変更の理由は様々であり、その際の ADL、生活動作意欲の変化について調査することで、福祉用具貸与における効果を推察する。

氏名(所属)	
有田 大 (ラミコジャパン株式会社)	
演題 (副題)	
要旨	福祉用具利用の適正化と情報共有の容易性についての取組 (計画書及びモニタリング表における利用評価の可視化)
要旨	持続可能な介護保険制度の実現の一環として、介護給付適正化事業の強化が求められている。本来、利用者が真に必要とするサービスを、事業者が過不足なく適切に提供することが求められるが、場当たり的に漠然としたサービス提供がなされているケースも少なくはない。そこで、適切で過不足のない利用計画の立案、また、多職種協働の推進を見据え、情報共有の容易性も考慮に入れた「可視化」できる計画書・モニタリング表の具現化に取り組んだ。

氏名(所属)	
伊々 トモキ	
岩谷 知起 (株式会社トーカイ)	
演題 (副題)	歩行関連用具の使用による転倒リスクの変化と、福祉用具専門相談員の転倒予防へのアプローチについて
要旨	歩行関連の福祉用具を導入することによる転倒リスクの軽減の度合いを明らかにする目的で、評価スケール「転倒スコア (FRI-21)」を用いて調査した結果を報告する。

氏名(所属)	
大林 ケンスuke	
大田 健介 (株式会社カクイックスティング)	
演題 (副題)	モニタリングの定量実施によって導き出した歩行器利用効果の可視化 (定量分析による取組がもたらすモニタリングでの実用の可能性について)
要旨	歩行器のモニタリング時、歩行時間と歩数を用いた数値化、利用経過の対比データに基づく歩行器利用効果の見える化を実施。得た結果からモニタリングの実用性や可能性について報告する。

氏名(所属)	
スマタ カズエ 伊オエイジ ニシムラ ジュンコ シムラ カト	
沼田 一恵 巖 英二 西村 潤子 新村 魁斗 (パラマウントヘルスケア総合研究所)	
コバヤシ タケシ クリエ ユウ	
小林 育 (日本医療科学大学) 桑江 豊 (城西国際大学)	
演題 (副題)	要介護者に対する特殊寝台の福祉用具貸与の有用性の調査研究 (背角度調整による起き上がり動作への影響)
要旨	特殊寝台の背角度調整による起き上がり動作を評価する指標を検討するため、健常高齢者 10 名を対象に、3パターンの起き上がり動作と背角度ごとに、筋活動量の測定と主観評価 (VAS) を実施した。各背角度における筋活動量について一元配置分散分析を実施した結果、腹直筋、左外腹斜筋、左広背筋、右内腹斜筋の筋活動量に有意な差が得られた。また筋活動量と主観評価の相関分析の結果、左外腹斜筋と右内腹斜筋に正の相関があり、筋活動量が多いほど起き上がりが困難と感じる傾向があった。この結果より、背角度を調整することで筋活動量が変化し、主観的な難易度も変化することから、筋活動量が起き上がりを評価する指標と一つとなることが示唆された。

口述発表3【福祉用具メーカーとの連携・協働】 演題と要旨

氏名(所属)	
スマジリ エイ 沼尻 侑也 (株式会社ヤマシタ)	
演題 (副題)	拡大家族における高機能ポータブルトイレの活用
要旨	核家族化や単独世帯の割合が増えているが、拡大家族（3世代等）世帯で支援・介護の対象となる方がいる。3世代が共に生活する上で、介護で特に家族の課題となる部分に注目し福祉用具活用による改善策を図ることを目的とした事例を報告する。

氏名(所属)	
ウエダ アキヨン 上田 晃義 (株式会社 柴橋商会)	
演題 (副題)	独居利用者への福祉用具サービス提供 (自由な時間を過ごしたいA氏に、福祉用具の提供を行った)
要旨	ヘルパーや訪問看護への気遣いなく、自宅にいるときは自由に時間を使いたいというお気持ちのA氏へ、最低限の訪問サービスでも安全に生活できるように、福祉用具の導入を行った事例について報告する。

氏名(所属)	
キタ エイケ 喜多 祐介 (株式会社ヤマシタ)	
演題 (副題)	介護リフトを活用し、退院後夫婦で自立した在宅生活を送るための取り組み
要旨	主治医より、介助の難しさから在宅生活は難しいとされた夫婦の「何としても自宅に戻り、2人で過ごしたい」という思いを叶えるべく、多職種連携を図り自立した在宅生活を送るため行った福祉用具導入事例を報告する。

氏名(所属)	
イバミ キ 和泉 友紀 梅田 龍 大澤 涼花 (株式会社ジー・シー・アイ)	
演題 (副題)	福祉用具専門相談員の関わりを通した移動用リフト導入効果の検証
要旨	在宅介護における負担が増す介護場面の一つに入浴介助や各生活場面における移乗介助がある。これらの生活場面で欠かせない福祉用具の一つに移動用リフトがあり、その導入の成果が在宅生活の継続に与える影響は大きい。弊社における福祉用具貸与の状況を踏まえて、介護負担が増すステージにおいても、介助者の負担を減らしながら、住み慣れた在宅にて生活を継続し続けることができた症例をもとに、移動用リフト導入の効果を検証したい。

氏名(所属)	
フジモト エカ	ヒロセ タケシ
藤本 裕香	廣瀬 健史 (株式会社ヤマシタ)
演題 (副題)	「軽量でコンパクトな歩行車がよい」に縛られない あえて「広い支持基底面の歩行器」を提案した事例

氏名(所属)	
アンラク ケイタ	
安樂 慶太	(フランスベッド株式会社)
演題 (副題)	福祉用具メーカーとの連携による勉強会 (リハビリ職に対する福祉用具の知識の共有)
要旨	福祉用具メーカー同行による褥瘡ケアの基本と最新のケア・理論について、東村山リハビリテーション協議会で行った勉強会の内容について報告する。

氏名(所属)	
ナカヤマ マツト	
中山 雅人	(エイジライフ株式会社)
演題 (副題)	緊急時、非常事態時における福祉用具専門相談員の最善を考えた行動
要旨	高齢者人口の多い日本に置いて、福祉用具がないと日常生活が困難な利用者がたくさんいる。その中で、緊急時、非常事態時に我々、福祉用具専門相談員はどのように利用者の生活を支え、地域に貢献する事ができるかを考え、行動に移す事が重要と考える。東日本大震災時の対応、台風19号（令和元年）の特別養護老人ホームの支援、BCPを通じて考える。

氏名(所属)	
ミヤモト コウヘイ	
宮本 康平	(株式会社ウィードメディカル)
演題 (副題)	モニタリング時の議事録自動作成アプリ導入における業務改善効果と課題
要旨	介護業界の人材不足が進んでいく中で、福祉用具貸与事業においても業務効率化とサービスの質向上は必須課題である事から、今回議事録自動作成アプリを導入した業務改善効果と課題を報告する。

口述発表4【地域・多職種連携・利用安全の取組】 演題と要旨

氏名(所属)	
カサキ ヒカル 高崎 光 (エイジライフ株式会社)	
演題 (副題)	地域・多職種連携の中で認知症の方を支える福祉用具専門相談員の役割
要旨	日本は少子高齢化が進行している国の一であり、認知症の割合も高齢化とともに増加し、特に高齢者層での認知症の方が増えている。今後、認知症の方が増加することを踏まえ、社会全体でのサポート体制や医療、福祉の充実が必要となる中、福祉用具専門相談員としての取り組みや今後の展望を述べる。

氏名(所属)	
キシモト タクマ 岸本 拓真 (株式会社トーカイ)	
演題 (副題)	多職種連携による大腿骨骨折患者の在宅復帰への取り組み (福祉用具の在り方)
要旨	本人は強く在宅復帰を希望するが、独居なので親族は有料老人ホームへの入居を希望。福祉用具による環境整備の実施と多職種連携を実施することで在宅復帰を実現した事例を報告する。

氏名(所属)	
イツベ シンゴ 磯部 真悟 (株式会社トーカイ)	
演題 (副題)	退院支援における多職種連携と住環境整備の重要性 (多職種連携で実現した安全で快適な在宅生活のサポート)
要旨	視床出血により右半身麻痺の後遺症がある為、退院後の不安を抱えた利用者に対し、多職種と連携し、多様な選択肢による住環境整備を提案。無事在宅復帰を果たした事例を報告する。

氏名(所属)	
イ丹 貴信 伊丹 貴信 (株式会社同仁社)	
演題 (副題)	定期モニタリング訪問による福祉用具の選定・提案
要旨	2024年4月から福祉用具モニタリング結果の記録とケアマネジャーへの報告が義務化された。モニタリングは単なる福祉用具の点検ではなく、利用者様の心身の状態把握やレンタルをしている福祉用具の適合状況確認など、福祉用具専門相談員の質の向上も求められている。モニタリングでの訪問時に、福祉用具専門相談員として気づいた利用者様の状態把握と福祉用具の選定・提案を行った事例を報告する。

氏名(所属)	
コジマ ミサオ 小島 みさお (東京都健康長寿医療センター研究所・明星大学)	
ヒガシハタ ヒロコ 東畠 弘子 (国際医療福祉大学大学院)	
演題 (副題)	福祉用具貸与・販売選択制導入半年後の実態と課題 (福祉用具専門相談員への調査から)

氏名(所属)	
アソノ カズアキ 浅野 一諒 (株式会社同仁社)	
演題 (副題)	特殊寝台利用の利用状況把握と再説明の必要性 (モニタリングの重要性)
要旨	モニタリング時に福祉用具の利用状況の確認を行っている上で、特殊寝台の機能が生かされていないケースが多く見られる現状がある。福祉用具専門相談員として、利用者と介護者に改めて適切な利用方法の説明を行うことで、福祉用具の有効活用を図る。

氏名(所属)	
カワラ サクラ 菅原 桜 (株式会社タマツ)	
演題 (副題)	災害時における福祉用具貸与事業者の役割
要旨	山形県日本海側最北端にある遊佐町は総人口 13,032 人。休火山である鳥海山の噴火、海岸からの津波、河川の氾濫、山崩れによる土砂災害などハザードマップでは多くの危険個所の喚起がなされている。その中で土砂災害警戒区域に多くの場所が指定されている吹浦地区と福祉用具貸与事業所である弊社が、地域の防災に対して実施した取り組みを報告する。

氏名(所属)	
ミズコシ シエキ 水越 良行 (株式会社ヤマシタ)	
演題 (副題)	親の介護を経験し気づいた、福祉用具サービスの効果と課題
要旨	在宅で父を介護する中で、改めて福祉用具サービスの効果を実感した。しかし私が福祉用具専門相談員であるからこそ気づいた課題もあり報告する。

口述発表5【経験3年未満相談員の福祉用具導入事例（チャレンジ発表）】 演題と要旨

氏名(所属)	
ワタナベ ハルキ 渡邊 暖希 (株式会社ヤマシタ)	
演題 (副題)	退院後の家屋環境整備を通して感じたご家庭での人材不足
要旨	退院後の家屋環境整備を通して、福祉用具の導入によりご本人を支援するご家族の介護力が不足していると感じた。ご本人の自立を支援する視点だけでなく、サポートを行う家族の負担軽減という視点を持つことが重要だと考えた事例を報告する。

氏名(所属)	
ホリタ カズヒコ 堀田 和秀 (日本基準寝具株式会社)	
演題 (副題)	医療と介護の架け橋となるべき福祉用具専門相談員の在り方 (ギャップを埋める医介連携と制度にとらわれない住環境マネジメントの重要性について)
要旨	病院や介護施設が増えない中、喫緊の課題である在宅での介護限界を引き上げるために、必要なことは何か。利用者Aさんの支援事例の結果を基に、重要だと考えるポイントや課題について、共有したい。

氏名(所属)	
ウエムラ コウイ 上村 航輝 (株式会社カクイックスティング)	
演題 (副題)	多系統萎縮症の重度利用者への福祉用具導入事例 (床ずれ防止用具、体位変換器クッション導入事例を通して)
要旨	気管切開・胃ろう造設・人工呼吸器など医療的ケアを必要とする要介護度5の利用者に対して、訪問診療・訪問看護・医療的ケアが充実した通所介護など多職種と連携を図り、迅速かつ適切な福祉用具導入支援を行なった事例を報告する。

氏名(所属)	
ホリタ ゴウイ 小木 康平 (株式会社ヤマシタ)	
演題 (副題)	高齢者への福祉用具啓発活動がもたらす意識変容と福祉用具専門相談員が担うべき役割の検討
要旨	高齢者が自宅で長く生活するためには、福祉用具の早期認知が重要である。本研究では、愛知県一宮市の老人会主催イベントでの啓発活動を通じ、福祉用具専門相談員に求められる役割を検討した。アンケート調査の結果、多くの参加者が福祉用具に関心を持ち、相談の必要性を認識した。また、支援者からは相談員の情報共有強化を求める声が上がった。これらの結果から、福祉用具専門相談員は情報提供や地域連携を強化し、介護予防に貢献する役割が求められることが示唆された。

氏名(所属)	
スガワラ モトナリ 菅原 育生 (株式会社かんきょう)	
演題 (副題)	福祉用具導入における機能的評価 (Barthel Index、以下 BI) と NRS (Numerical Rating Scale) の活用及び導入効果の可視化 (福祉用具導入効果の数値化に向けた取り組みと課題)
要旨	効果的な福祉用具の導入及び導入効果の可視化のために、機能的評価 (BI) 及び NRS を活用した取り組みを報告する。当該利用者は、40代男性、右脳出血にて左片麻痺及び幻肢痛が生じている。片麻痺による日常生活動作 (Activities of Daily Living、以下 ADL) の低下や幻肢痛による不眠が主訴である。福祉用具導入前後に BI 及び NRS を用いて導入効果の可視化を図った一例である。

氏名(所属)	
フジワラ エカヒロ 藤原 孝洋 (株式会社ヤマシタ)	
演題 (副題)	退院後の安全な在宅生活を送るための多職種連携の必要性
要旨	病院リハビリ室で退院に向けてリハビリを受けている利用者が利用している福祉用具は古い用具が多い。さらに退院後に同じ機種の福祉用具を利用できるとも限らないため、利用者に戸惑いや退院後に再度使い慣れなければならない事例が多い。3 病院の理学療法士(合計 65 名)にアンケートを実施したところ、当社の取り組みである「退院前支援」として福祉用具を試すことができるなどを知らないという結果が出ている。また「退院前の福祉用具お試しについて」には、「患者に適合する福祉用具があるなら退院前支援を利用したい」との回答が全体の 90%を超える結果となった。こういった情報を伝えることで多職種での協働が成功するきっかけになればと考える。

氏名(所属)	
ヤマザキ ケイタ 山崎 圭太 (株式会社トーカイ)	
演題 (副題)	パーキンソン病の進行により転倒を繰り返していた 6 輪自走車いす利用者に対する福祉用具導入事例
要旨	介護付有料老人ホームに入居しているパーキンソン病の利用者に対し、介護サービス事業者と連携して福祉用具を導入した事例を報告する。

氏名(所属)	
タカハシ ダイチ トクトメ ユウジ 高橋 大地 德留 勇治 (株式会社カクイックスティング)	
演題 (副題)	モニタリングの適切な実施に向けた取り組み (ケアマネジャーへのアンケート調査を通した現状と課題)
要旨	当事業所では利用者に行う計画的モニタリングを、複数の福祉用具専門相談員の協働にて行っており、モニタリングの実施時期は、ケアプラン短期目標ごとの見直しに合わせ、基本として年に 2 回行っている。モニタリング記録の交付義務対象となったケアマネジャーにモニタリングに関するアンケートを実施し、モニタリングのより適切な実施に向けた課題について考察を行った。